

## 第4節 地球環境分野 脱炭素

環境基本計画 目指す姿（長期的な目標）

世界をリードするエネルギー転換・脱炭素社会が進み、  
かけがえのない地球環境を未来の子どもたちへと  
継承しているまち

関連するSDGs



分野別評価指標の現状と目標

指標	基準（R元実績）	現状（R5実績）	目標（R12）
石狩市域から排出されるCO <sub>2</sub> 排出量	618,652t-CO <sub>2</sub> /年 (H25)	560,485t-CO <sub>2</sub> /年 (R4)	324,652t-CO <sub>2</sub> /年
市役所の事務事業におけるCO <sub>2</sub> 排出量	19,678 t-CO <sub>2</sub> /年 (H25)	16,259t-CO <sub>2</sub> /年	9,839 t-CO <sub>2</sub> /年
再エネ100%ゾーンでの操業企業数	0社	0社	1社
再生可能エネルギーの地産地活の事例	0事例	0事例	1事例
次世代エネルギー自動車の導入数	約100台	約200台	約14,800台
水素の供給拠点数	0拠点	0拠点	1拠点
認定低炭素住宅の建設数(累計)	54件	127件	185件
J-VER販売量(累計)	850 t-CO <sub>2</sub>	1,410t-CO <sub>2</sub>	1,753 t-CO <sub>2</sub>
地域材を活用した公共施設の整備(累計)	0棟	0棟	2棟以上
市内公共施設のLED化割合	15%	100%	100% (R7)
ごみ総排出量	18,347 t /年(R3)	18,548 t /年	17,037 t /年
公共施設での再生可能エネルギー導入量	275kW	438kW	1,297kW
公共施設での再エネ比率の高い電力会社 の選択的導入施設数	0施設	0%	6施設

# 1 地球温暖化対策

## (1) 地球温暖化対策推進計画

### ① 計画の趣旨・位置づけ・対象期間

#### 1) 趣旨

市では、地球温暖化対策を推進するため、地球温暖化対策推進計画（区域施策編・事務事業編）を策定し、市内から排出される温室効果ガスと、市の事務事業によって排出される温室効果ガスの削減に取り組んでいます。

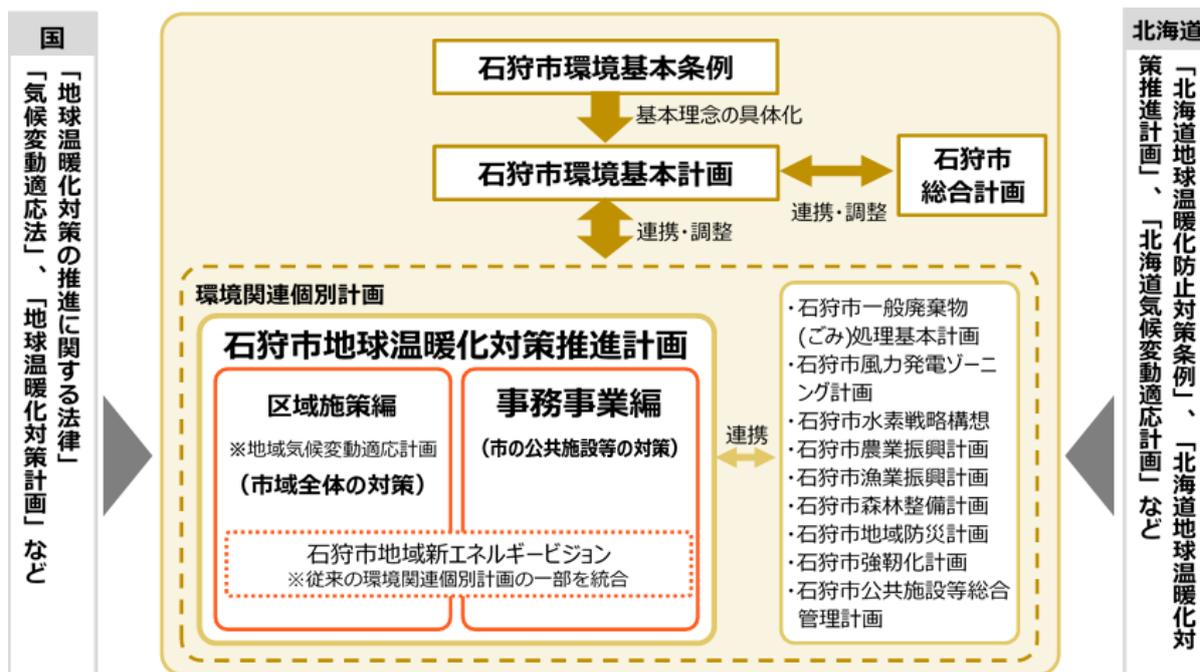


図 3-25 計画の位置付け

#### 2) 対象期間

計画の対象期間は、区域施策編が令和3年度から令和12年度までの10年間、事務事業編が令和3年度から令和7年度までの5年間となっています。また、基準年はどちらも国の計画に準じて平成25年度としています。※令和5年度一部改定

### ② 二酸化炭素削減目標

削減目標は、次のように定めています。

#### 1) 区域施策編による二酸化炭素削減目標

削減目標	令和12年度のCO <sub>2</sub> 排出量を325千t-CO <sub>2</sub> 以下とする。
------	---

#### 2) 事務事業編による二酸化炭素削減目標

削減目標	令和12年度のCO <sub>2</sub> 排出量を9,839t-CO <sub>2</sub> 以下とする。
------	--

## (2) 温室効果ガス排出量の実績

### ① 石狩市域からの排出量

石狩市地球温暖化対策推進計画【区域施策編】におけるエネルギー起源の分野別二酸化炭素排出量について、基準年度となる平成25年度は、619千t-CO<sub>2</sub>/年（市民一人当たり10.3t）となっており、家庭部門が28.7%と最も高く、次いで運輸部門28.2%、産業部門22.5%、業務その他部門19.7%と続いています。

令和4年度は、560,485 t-CO<sub>2</sub>/年（市民一人当たり9.7t）と、対基準年度比では0.6%の減少となっています。分野別では産業部門で8.8%、業務その他部門で16.3%、家庭部門で10.7%、運輸部門で3.6%、廃棄物で14.9%減少しています（表3-33）。

表 3-33 市域における二酸化炭素排出量

活動種別	平成25年度 (基準年度)		令和4年度			
	排出量	構成割合	排出量	構成割合	増減量	増減率
	t-CO <sub>2</sub> /年	%	t-CO <sub>2</sub> /年	%	t-CO <sub>2</sub> /年	%
産業部門	139,433	22.5	127,135	22.7	-12,298	-8.8
業務その他部門	121,668	19.7	101,870	18.2	-19,798	-16.3
家庭部門	177,597	28.7	158,630	28.3	-18,967	-10.7
運輸部門	174,536	28.2	168,241	30.0	-6,295	-3.6
廃棄物	5,418	0.9	4,610	0.8	-808	-14.9
合計	618,652	100	560,485	100	-58,166	-9.4
1人当たり	10.3		9.7		-0.6	-5.5

注) 当該年度の二酸化炭素排出係数を使用して算出 (市環境課調べ)  
 なお、四捨五入の関係で合計欄の値と内訳の合計が一致しない場合があります。

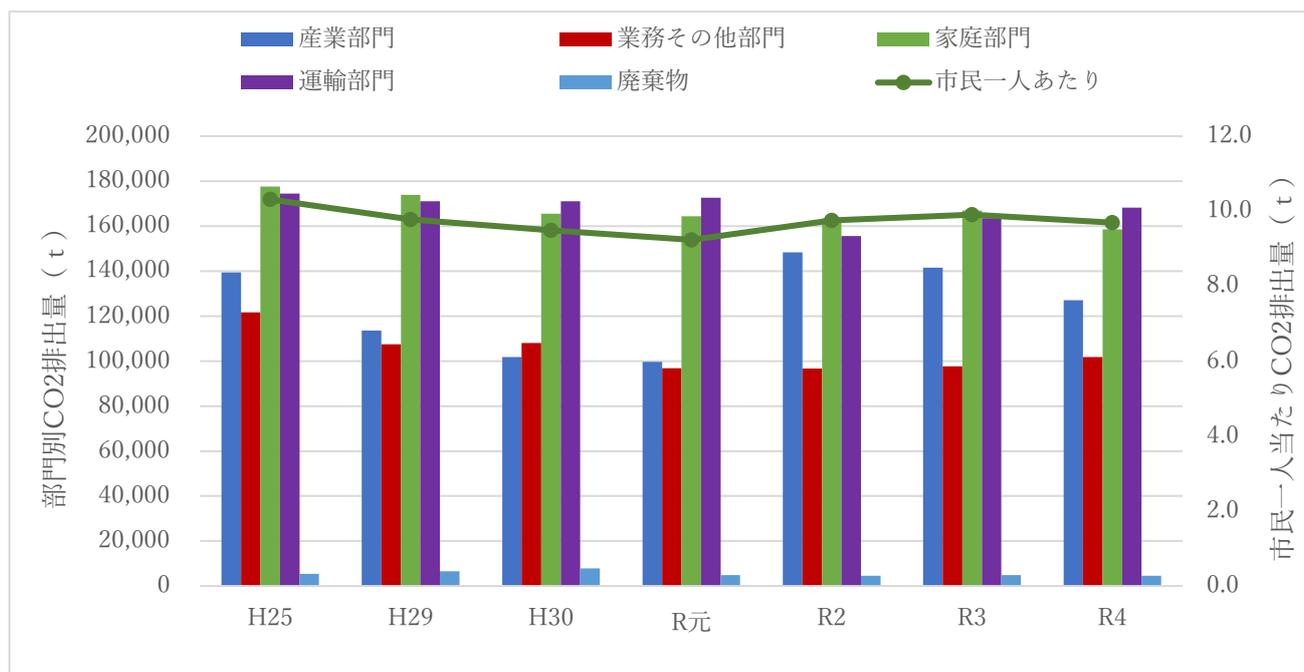


図 3-26 市域における市民一人当たりの二酸化炭素排出量の推移

## ② 石狩市の事務事業に伴う排出量

石狩市地球温暖化対策推進計画【事務事業編】における削減目標は、国の地球温暖化対策計画（平成28年5月）と同等とし、基準年度である平成25年度の排出量（19,678t-CO<sub>2</sub>）に対して、令和12年度時点で約50%（総削減量9,839 t-CO<sub>2</sub>）削減することを基本的な考え方としています。

令和5年度の排出量は、16,259 t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度と比較して、17.4%削減しています。要因としては、公共施設照明のLED化や契約電力会社の変更による影響などが考えられます（表3-34）。

表 3-34 市の事務・事業に伴う温室効果ガス排出量

種別 (t-CO <sub>2</sub> )		平成 25 年度 (基準年度)	令和 5 年度		
		排出量	排出量	増減量	増減割合
エネルギー起源二酸化炭素	灯油	1,471	1,216	-256	-17.4%
	A重油	1,215	441	-774	-63.7%
	LPG	34	72	38	112.4%
	都市ガス等	1,271	2,023	752	59.2%
	軽油	350	360	11	3.1%
	ガソリン	125	170	46	36.7%
	電気	9,459	7,201	-2,258	-23.9%
非エネルギー起源二酸化炭素		5,418	4,454	-964	-17.8%
メタン		11	4	-7	-63.9%
一酸化二窒素		323	319	-4	-1.3%
代替フロン等 4 ガス		2	2	0	5.8%
合計 (t)		19,678	16,259	-3,418	-17.4%

注) 当該年度の二酸化炭素排出係数を使用して算出 (市環境課調べ)  
 なお、四捨五入の関係で合計欄の値と内訳の合計が一致しない場合があります。  
 算定対象の温室効果ガスを、地球温暖化係数を用いて二酸化炭素の排出量に換算しています。

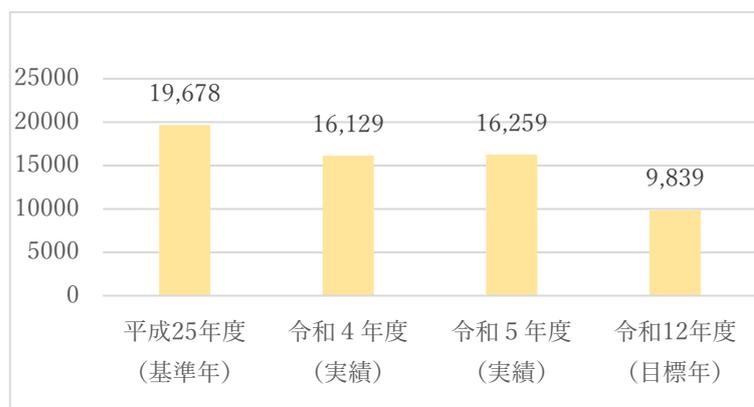


図 3-27 市の事務・事業に伴う温室効果ガス排出量推移と削減目標

### (3) いしかり J-VER

石狩市の森林面積は53,356haで、行政区域の約74%を占めています（表6-4）。森林に占める市有林の割合は約4%ですが、国有林の割合は約77%と広大な面積を有しています。

保安林については、花川・生振地区や海岸砂丘背後の森林は大部分が防風保安林に、厚田・浜益地区では、水源涵養保安林、土砂流出防備保安林や干害防備保安林等に指定されています。

表 3-35 石狩市森林面積の内訳とその経年変化（各年度末） (ha)

区分	R元	R2	R3	R4	R5
国有林	41,191	41,191	41,191	41,233	41,233
道有林	—	—	—	—	—
市有林	2,111	2,110	2,110	2,110	2,110
その他民有林	9,995	10,021	10,041	10,019	10,013
合計	53,297	53,321	53,342	53,362	53,356

注) 単位未満を四捨五入して表示しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

(資料：北海道林業統計)

#### ① 石狩市オフセット・クレジット（いしかりJ-VER）<sup>18</sup>

市では、市有林の間伐等の適正な管理により得られた二酸化炭素吸収量について、平成24年に環境省が運営するオフセット・クレジット（J-VER）制度の認証を受けました。

現在、認証により発行されたオフセット・クレジット（いしかりJ-VER）は、二酸化炭素の削減に取り組もうとしている事業者や団体等に販売し、事業者の企業活動をはじめ、工事やイベント等で排出される二酸化炭素の相殺に活用されています。

また、その販売収入を環境まちづくり基金に積み立て、市有林整備事業などの森づくりをはじめ、環境保全及び自然保護に関する各種環境施策に活用しています。

表 3-36 年度別 J-VER 販売量(t-CO<sub>2</sub>)

(t-CO <sub>2</sub> )	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30	R元	R2	R3	R4	R5
年間販売量	42	75	151	225	80*	47	76	76	155	97	102	156	201

\*「G7 2016 伊勢志摩サミット」への寄附分（50t）を除く。

いしかりJ-VERのロゴマーク（図6-5）は、プロジェクトテーマである「ニシンが群来（くき）る豊かな海を未来に繋ぐ森づくり」をデザインしたもので、回帰してくる魚の象徴としてマーク中央に「さかな」を配置し、森と海の繋がり、現在と未来の繋がりをグリーンとブルーで構成されるハート型に託しました。さかなとハートで形成されたフォルムは、石狩市の頭文字「i」でもあります。



図 3-28 「いしかり J-VER」のロゴマーク

#### <sup>18</sup> オフセット・クレジット制度（J-VER制度）

国内のプロジェクトによる温室効果ガス排出削減・吸収量について、環境省が運営するオフセット・クレジット認証運営委員会が、排出削減・吸収の信頼性を審査し、カーボン・オフセットに用いることができる市場流通可能なクレジットとして認証する制度。

いしかりJ-VERを購入いただいた方には、購入の証書をお渡ししていましたが、令和2年度から、2t以上のいしかりJ-VERを購入いただいた方に、千本ナラ（浜益区）の倒木材を活用した木製の証書をお渡しすることとしました。

千本ナラを活用した木製証書は、使用する枝の部分により、形や色合いが一つ一つ違うため、世界で一つだけの証書となります。



写真：木製証書

表 3-37 いしかり J-VER の販売実績（令和5年度）

No.	販売先	内容・目的
1	株式会社石狩環境メンテナンスセンター様	株式会社石狩環境メンテナンスセンターの事業活動により排出されるCO <sub>2</sub> をオフセット。
2	株式会社悠愛様	日常の介護タクシー業務において、燃料節約のエコドライブによる省エネ対策に努めているが、どうしても排出するCO <sub>2</sub> の一部を、北海道有林・石狩市有林のJ-VERを活用してオフセット。
3	2023年JAF全日本ダートトライアル選手権第4戦北海道ダートスペシャルinスナガワ大会事務局様	2023年JAF全日本ダートトライアル選手権第4戦「北海道ダートスペシャルinスナガワ」を通じて、地球温暖化対策とSDGsを取り入れた「2050年CO <sub>2</sub> 排出量の実質ゼロを目指すゼロカーボン北海道」と「砂川市ゼロカーボンシティ宣言」の協働に向けて森林保全と地域の活性化に貢献するためのオフセット。
4	有限会社ウリ薬局様	「2050年CO <sub>2</sub> の排出量実質ゼロを目指すゼロカーボン北海道」と「砂川市ゼロカーボンシティ宣言」に協働し、店内での日常業務における、節電努力しても、どうしても必要とする電気の使用により排出されるCO <sub>2</sub> の一部を、地球温暖化対策のため、北海道有林と石狩市有林のJ-VERを活用しオフセット。
5	ブルードットグリーン株式会社様	北海道と包括連携協定を結ぶサッポログループ（サッポロビール（株）、ポッカサッポロ北海道（株））と、生活協同組合コープさっぽろ、及びマルハニチロ（株）、ホクレン農業協同組合連合会、カルビー（株）、よつ葉乳業（株）、北海道コカ・コーラボトリング（株）、日糧製パン（株）による「北海道の森に海に乾杯！」共同キャンペーンのオフセット。
6	地域環境団体 砂川レイクサイドの会様	2050年カーボンニュートラルを目指す北海道や「ゼロカーボンシティ宣言」を行った砂川市と協働する、地域環境団体 砂川レイクサイドの会が、「2023年海ごみゼロ・CO <sub>2</sub> ゼロ作戦in砂川オアシスパーク」を行うことで回収される廃棄物量を4tと勘案し、その処理により排出されるCO <sub>2</sub> の一部をオフセット。
7	カルネコ株式会社様	カルネコ株式会社が行うカーボン・オフセット。2022年度の販促物等を製造する際に排出されたCO <sub>2</sub> の一部である10t-CO <sub>2</sub> をオフセット。
8	ダイハツ北海道販売株式会社様	SDGsの取り組みとして、2022年4月から2023年3月の期間の、シーズン毎のタイヤ交換時に使用されるタイヤ収納袋1枚につき1円拠出し、2,000kg-CO <sub>2</sub> をオフセット。
9	株式会社 岸本組様	石狩川環境整備事業のうち、砂川遊水地管理用道路造成工事受注に伴う工事現場のCO <sub>2</sub> 排出量削減のため実施するオフセット。
10	季の庭ヤエール様	「季の庭ヤエールのソフトクリーム」の生産・販売時に使う電気と、来店されるお客様の車両から排出されるCO <sub>2</sub> を北海道道有林と石狩市市有林のオフセット・クレジットを活用してオフセット。
11	一般社団法人日本自動車連盟登録加盟クラブ モータースポーツクラブ.エゾ様	毎年盛夏の時期に石狩市市有林道において、四輪自動車によるモータースポーツ（ラリー）を開催するにあたり、競技車両等からのCO <sub>2</sub> をオフセット。

No.	販売先	内容・目的
12	株式会社 NAKAMICHI FARM 様	稲作・野菜農家である株式会社NAKAMICHI FARMが6次産業化を目指し、その生産工程で使用する農機具等から、令和5年度に排出するCO <sub>2</sub> の一部を、北海道有林・石狩市有林のJ-VERを活用してオフセット。
13	株式会社A I R D O 様	航空機の運航に伴い排出されるCO <sub>2</sub> を一部オフセット（2023年12月20日運行予定の東京-札幌間運航便（6便分）に相当）。
14	カーボンフリーコン サルティング株式会 社 様	株式会社北海道アルバイト情報社が2023年10月における全事業所の電力使用に伴い排出されるCO <sub>2</sub> を全量オフセット。
15	カルネコ株式会 社 様	SBパワー株式会社の行う寄付型オフセット。2023年6月～8月における自然でんきご利用者様1件/月につき50円を拠出し、お客様にて投票された支援対象の森林31t-CO <sub>2</sub> をオフセット。
16	カルネコ株式会 社 様	株式会社CHCPファーマシーの行う寄付型オフセット。処方箋1枚につき1円を拠出する(2023年7月～9月)。
17	カルネコ株式会 社 様	株式会社ニチレイフーズが行う、森林支援を目的寄付型オフセット。お弁当にGood! (R)シリーズの売上の一部で森林保全活動をサポート。工場周辺のクレジットを購入し、50t-CO <sub>2</sub> をオフセット。
18	株式会社中島測量 計 様	令和5年度の事業活動で排出されているCO <sub>2</sub> の一部をオフセット。
19	北海道留萌振興局 様	「北海道クールアース・デイ（7月7日）」の取組として、脱炭素に向けたライフスタイル・ビジネススタイルの転換につなげる「ゼロカーボン北海道チャレンジ!」の実践を強化するとともに、7月7日の留萌振興局庁舎の電気使用量に相当するCO <sub>2</sub> をオフセット。

## コラム

### ◎ニシンが群来(くき)る石狩の海

群来とは、魚が産卵のために沿岸に大群で来ることをいいます。豊かな森林が海岸付近まで続く石狩湾北部の沿岸は、かつてニシンにより大いに繁栄しましたが、昭和30年頃を境にニシンは姿を消し、後にはニシン御殿が昔の栄華を伝えるだけになりました。

しかし近年、海洋環境の変化や関係者の取り組みにより、ニシンが浜に戻ってきました。一部では、「群来」により海岸がエメラルドグリーンに染まる光景が、再び見られるようになりました。

群来が起きるためには、海岸部にニシンが卵を産みつける海藻(草)の群落「藻場」が欠かせません。豊かな藻場が育つためには、間伐などにより森林を健やかに育て、落ち葉などからの有機物が海に流れ込む環境が必要です。「森が海を育てる」という認識は地域で共有され、間伐や保育などの森林整備や市民による植林活動など、多くの取り組みが行われています。

石狩の森と海が織り成す「群来」に代表される自然の営みを大切にするため、豊かな森林を造成し、未来へと引き継いでいくことを目指していきます。



写真：ニシンの群来(くき) (石狩湾)



写真：厚田区の市有林

## (4) 次世代自動車の導入

経済産業省は、令和2年に「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定し、その中で2035年までに乗用車の新車販売を100%電動車にすることを目標としています。また、令和3年に改定された環境省の「地球温暖化対策計画」でもこの目標に合わせ、2030年までに乗用車新車販売の5割～7割を次世代自動車とするとしています。

こうした国の目標を踏まえ、市でも、2030年における市内の次世代自動車導入台数を14,800台とすることを目指しています。また、市の事務事業としても、公用車の更新時に次世代自動車へ転換することで、公用車使用時における温室効果ガス排出量の削減を図っています。

公用車の使用における二酸化炭素排出量は、基準年度である平成25年度は380.7t-CO<sub>2</sub>であることに対して、令和5年度は488.0t-CO<sub>2</sub>であり、28.2%の増加となっています。

表 3-38 石狩市公用車における燃料の使用に伴う二酸化炭素排出量

	平成25年度 (基準年度)	令和5年度		
	排出量	排出量	増減量	増減率
	t-CO <sub>2</sub> /年	t-CO <sub>2</sub> /年	t-CO <sub>2</sub> /年	%
ガソリン	110.3	152.1	41.8	37.9
軽油	269.3	334.5	65.2	24.2
LNG	1.1	0.0	-1.1	-100.0
電気	0	1.4	1.4	-
総排出量 (t)	380.7	488.0	107.3	28.2

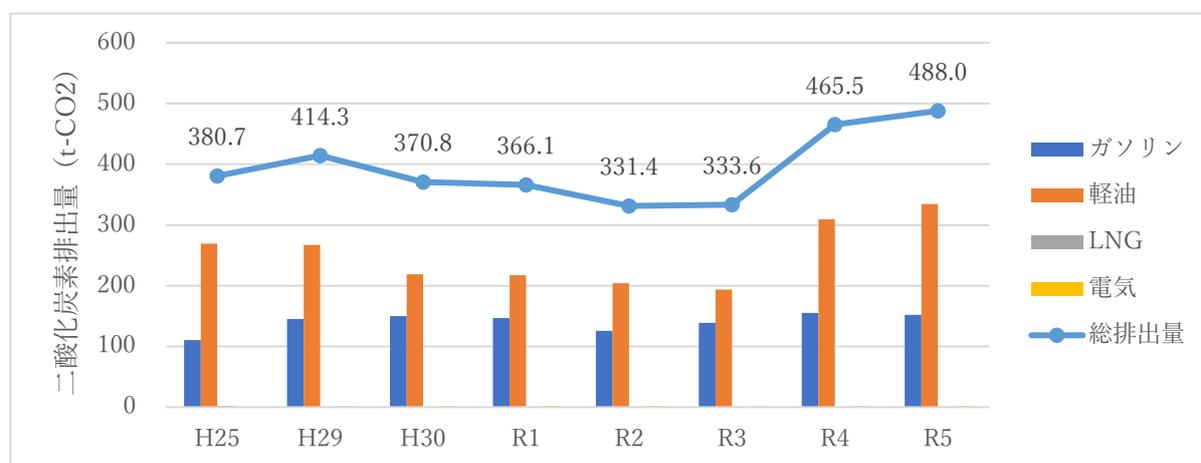


図 3-29 石狩市公用車における燃料の使用に伴う二酸化炭素排出量の推移

## (5) デコ活に向けた取り組み

2050年カーボンニュートラル及び2030年度削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするため、新しい国民運動「デコ活」を展開中です。

本市も、この取り組みに賛同し、市の広報誌や町内会の回覧版などを活用しながら、家庭でできる省エネ行動や、環境にやさしい商品の選び方など、脱炭素につながる将来の豊かな暮らしの全体像・絵姿をご紹介しますとともに、市民・企業等のみなさまと共に、新しい暮らしを後押しするための情報提供をしています。



図 3-30 普及啓発ポスター（デコ活アクション 30）

石狩市ホームページ（市民の皆さま、事業者の皆さまに取り組んでもらいたいこと）

<https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/soshiki/kankyo/65081.html>



## （6）公共施設のLED化

市の事務事業による温室効果ガス排出量のうち、その約7割は電気の使用によるものです。施設によっては、電気使用量のほとんどは照明によるものであるため、一部改修できない照明を除いた全公共施設について、エネルギー消費効率の高いLED照明を導入しました。

施設のLED化は、令和3年度は66施設、令和4年度は77施設について設置を完了しました。

## （7）グリーン購入

グリーン購入は、気候変動対策や廃棄物の削減・資源循環の促進を果すための手段の一つであり、「石狩市地球温暖化対策推進計画（事務事業編）」及び「石狩市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の施策として位置づけられています。

グリーン購入とは、商品を購入する際、①本当に必要であるかを考える ②環境への負荷ができるだけ少ない製品やサービスを選ぶ ③環境負荷の低減に努める事業者から優先して購入する という意識を持ちながら、製品やサービスを購入することです。

石狩市役所におけるグリーン購入状況については、表3-39のとおりです。

令和5年度 グリーン購入実績

分野	グリーン調達率	総調達量	グリーン購入調達量
①紙類	28.6%	93,415	26,755
②文具類	60.2%	76,568	46,113
③オフィス家具等	61.5%	39	24
④画像機器等	36.4%	635	231
⑤電子計算機等	50.0%	30	15
⑥オフィス機器等	45.7%	256	117
⑦家電製品	100.0%	1	1
⑧エアコンディショナー等	-	0	0
⑨温水器等	-	0	0
⑩照明	1.3%	76	1
⑪自動車等	84.6%	26	22
⑫消火器	9.1%	11	1
⑬制服・作業服等	52.0%	98	51
⑭インテリア・寝装寝具	0.0%	166	0
⑮作業手袋	0.0%	101	0
⑯その他繊維製品	0.0%	33	0
⑰災害備蓄用品	12.4%	225	28
⑱ゴミ袋等	20.5%	234	48
⑲印刷物_外部発注	25.9%	296,206	76,702

表3-39 石狩市役所におけるグリーン購入実績

## (8) 電力調達に係る環境配慮契約

環境配慮契約とは、環境負荷の軽減を目的として、契約を結ぶ際に価格に加えて環境性能を含めて総合的に評価し、契約先を決める仕組みのことです。

本市では、環境に配慮した電力調達契約を推進するため、「国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律」第11条の規定に基づき、「石狩市電力の調達に係る環境配慮契約方針」を策定しています。

令和5年度においては、令和4年度に引き続き、方針を契約に反映することができなかったことから、実施施設はありません。

## 2 再生可能エネルギーの地産地活

### (1) 廃菌床ペレット活用による木質バイオマス設備の導入

木質バイオマスなど木材エネルギーの利用は、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えないというカーボンニュートラルの特性を持っています。これは、「植物をエネルギーとして利用するときには排出される二酸化炭素」と「その植物が生長する過程で吸収した二酸化炭素」は、長い目で見ると等しいという考えからです。

市では、平成27年度に北海道再生可能エネルギー等導入推進事業（グリーンニューディール基金事業）を活用し、花川南コミュニティセンターにペレットボイラーを導入しました。

使用するペレットは、市内の社会福祉法人はるにれの里の「ふれあいきのこ村」がしいたけの廃菌床を再加工したペレットを一部利用しています。

このペレットボイラーの導入により、令和5年度は約78t-CO<sub>2</sub>の削減効果があり、今後も公共施設において、地域産の木質バイオマスエネルギーを活用し、カーボンニュートラル及びエネルギー輸送による二酸化炭素の排出を抑える、「エネルギーの地産地活」を推進していきます。

### (2) 太陽光発電システムの導入

#### ① 花川南小学校への導入

市内の花川南小学校では、平成22年に太陽光発電システム（発電設備出力5kW）を設置し、発電を行っています。

発電した電力は花川南小学校で使用しており、令和5年度の発電量は約3,600kWh、二酸化炭素の削減効果は1,900kg-CO<sub>2</sub>となっています。

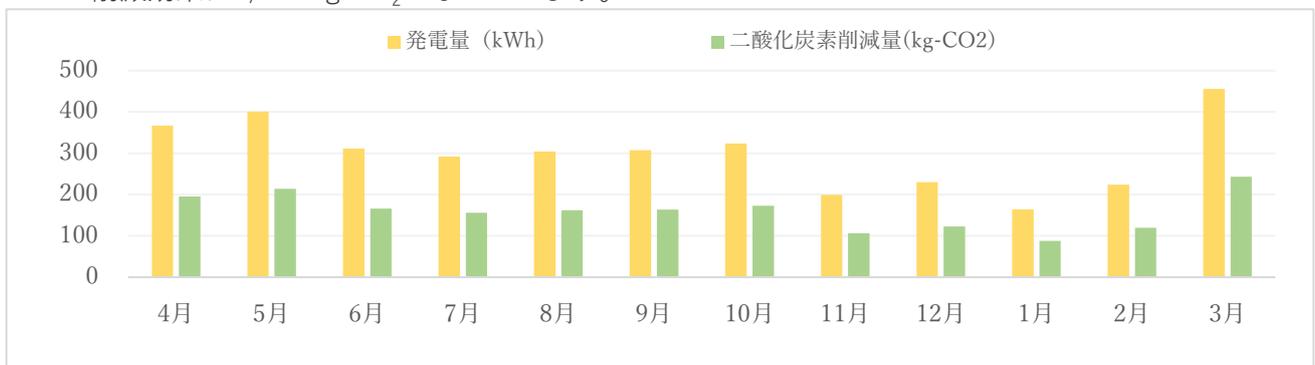


図 3-31 令和5年度花川南小学校太陽光発電システムの発電量及び二酸化炭素削減量

(市環境課調べ)



図 3-32 花川南小学校太陽光発電システムの年間発電量及び二酸化炭素削減量の推移

(市環境課調べ)

### (3) 市内の再エネ導入状況

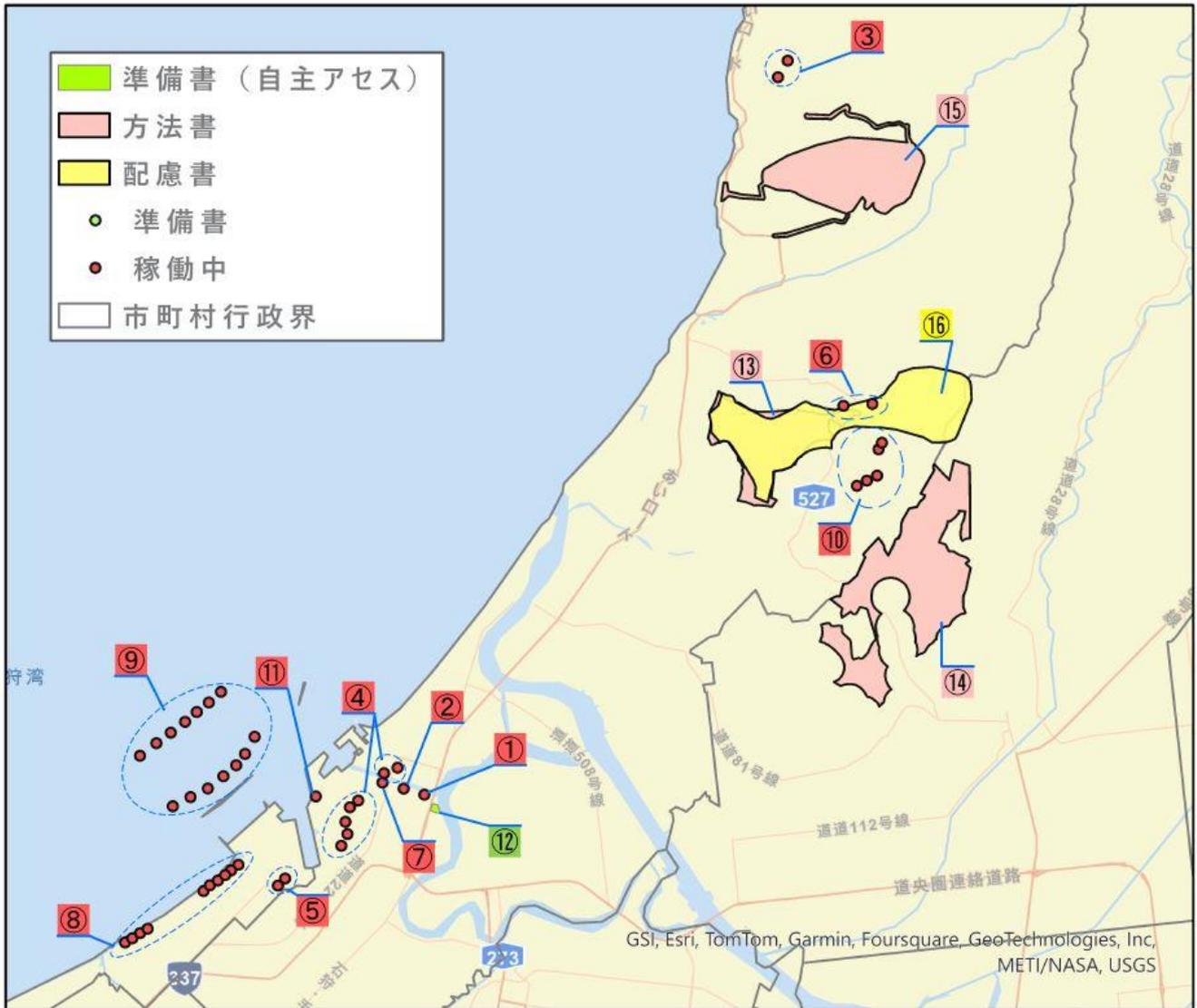
市内では、豊富なポテンシャルを活かし、太陽光発電や風力発電の導入が進んでいるほか、風力発電について複数の計画が行われています。

また、大規模なバイオマス発電事業も計画されており、市内や周辺での再エネ発電能力は、約235MWとなっています。

表 3-40 市内の再エネ発電導入状況（稼働済みのもの）

再エネ種別	導入設備容量
太陽光発電設備	27 MW
風力発電設備	155 MW
バイオマス発電設備（未利用木質）	53 MW
合 計	235 MW

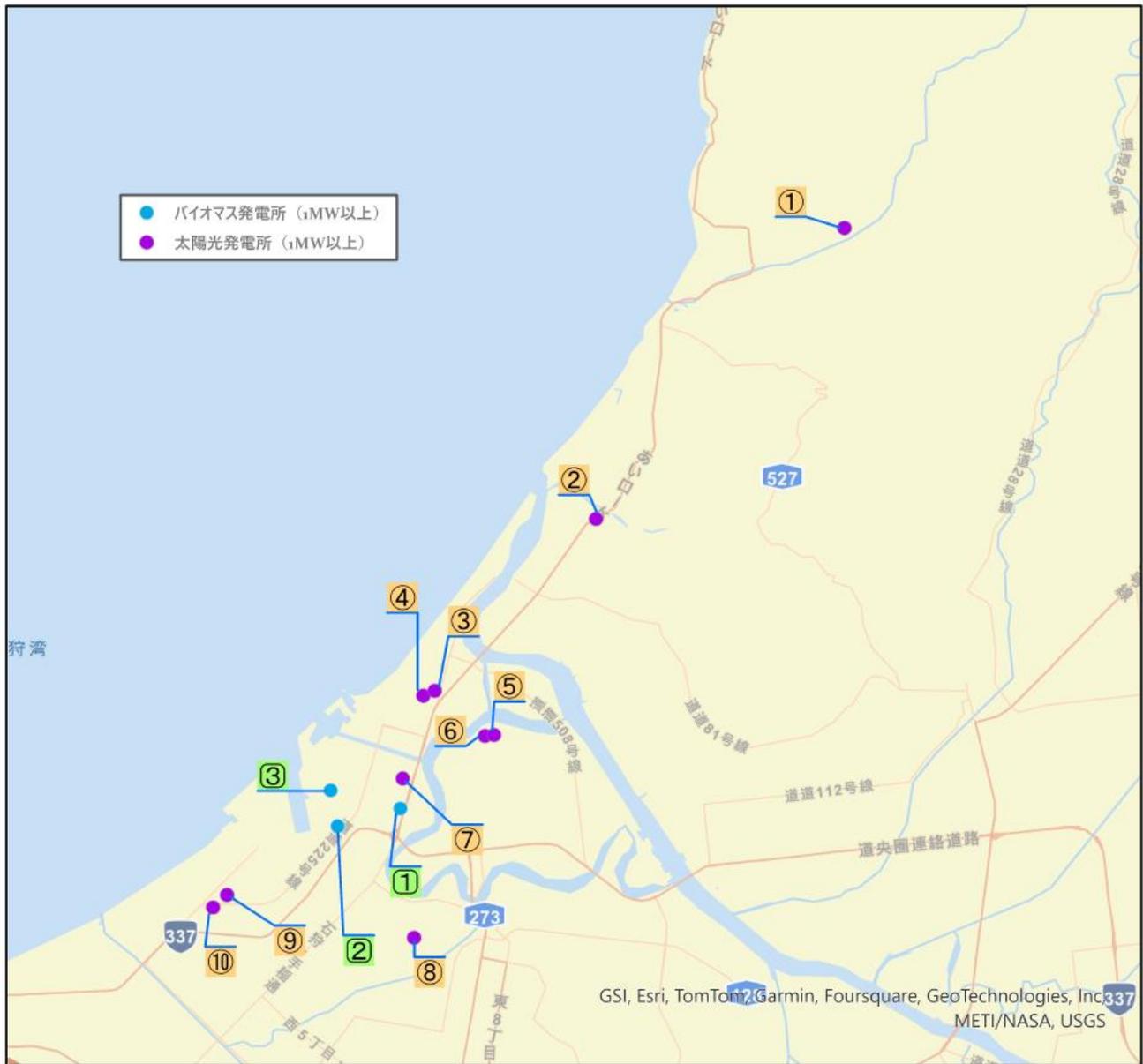
（事業計画認定情報公表用ウェブサイト 2025年1月末時点）



No.	事業者名	出力kW	基数	総出力kW	No.	事業者名	出力kW	基数	総出力kW
<b>稼働中</b>									
①	一般社団法人グリーンファンド石狩	1,500	1	1,500	⑦	株式会社風の杜いしかり	1,650	1	1,650
②	NPO法人北海道グリーンファンド	1,650	1	1,650	⑧	銭函ウィンドファーム合同会社	3,400	10	33,000 出力抑制
③	株式会社厚田市民風力発電	2,000	2	4,000	⑨	合同会社グリーンパワー石狩	8,000	14	99,990 出力抑制
④	株式会社ウィネット石狩	3,200	7	20,000 出力抑制	⑩	石狩グリーンエナジー株式会社	4,200	5	21,000 出力抑制
⑤	コスモエコパワー株式会社	3,300	2	6,600	⑪	北海道瓦斯株式会社	2,350	1	2,350
⑥	望来古平発電株式会社	3,200	2	4,999 出力抑制					

No.	事業者名	出力kW	基数	総出力kW	No.	事業者名	出力kW	基数	総出力kW
<b>準備書 (自主アセス)</b>					<b>方法書</b>				
⑫	京セラコミュニケーションシステム株式会社	2,300	1	2,300	⑬	合同会社石狩市厚田区聚富陸上発電所	4,200	8	33,600
<b>配慮書</b>					⑭	合同会社石狩郡当別町西当別陸上発電所	4,200	12	50,400
⑯	株式会社石狩聚富風力発電	3,000 ~6,000	22	66,000 出力調整	⑮	東急不動産株式会社	4,300 ~6,100	15	91,500 最大

図 3-33 市内及び周辺の風力発電事業 (アセス手続き中、又は工事中含む)



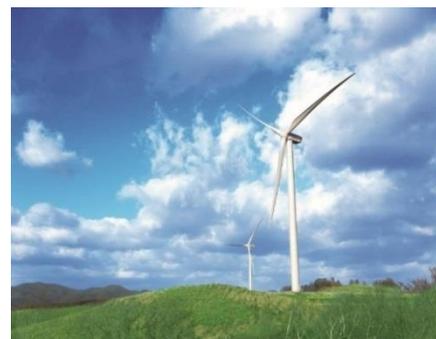
No.	事業者名	進捗状況	出力kW	No.	事業者名	進捗状況	出力kW
<b>太陽光発電事業</b>							
①	リコーリース株式会社	稼働中	1,986.0	⑥	CLEAN ENERGIES TARIFA株式会社	稼働中	1,778.0
②	八重洲インフラファンド合同会社	稼働中	1,995.0	⑦	株式会社Paix	稼働中	1,225.0
③	地域電力株式会社	稼働中	1,800.0	⑧	株式会社上里建設	稼働中	1,665.0
④	株式会社サンユー	稼働中	1,260.0	⑨	郵船商事株式会社	稼働中	1,450.8
⑤	CLEAN ENERGIES TARIFA株式会社	稼働中	1,990.0	⑩	I M C ソーラー株式会社	稼働中	1,958.4
<b>バイオマス発電事業</b>							
①	エネサイクル株式会社	稼働中	1,200.0	③	石狩バイオエナジー合同会社	稼働中	51,500.0
②	石狩地域バイオマス発電株式会社	運転開始前	9,950.0				

図 3-34 市内の1 MW以上の太陽光発電及びバイオマス発電事業  
(事業計画認定情報公表用ウェブサイト 2025年1月時点)

#### (4) 厚田区市民風力発電所

平成26年12月から、厚田区小谷地区の市有地で(株)厚田市民風力発電が運営する定格出力2,000kWの風車2基が稼動しています。この風力発電事業の大きな特徴は、地域貢献として売電益の一部を市に寄付していただき、市はそれを環境まちづくり基金に積み立て、各種環境関連事業の財源に活用していることです。

この取り組みにより、「風」という地域資源による再生可能エネルギーの創出と、そこで生まれた利益からの地域還元が実現しています。



写真：厚田区小谷地区の風車

#### (5) 石狩市水素戦略構想

水素は使用時にCO<sub>2</sub>を排出せず、製造する際に再生可能エネルギー電力を使用すれば、熱・燃料といった電力以外にも活用できる、全くCO<sub>2</sub>を出さないエネルギー源となることから、脱炭素社会の実現に欠かせないものとなっています。

そこで市では、市内及び周辺地域の再エネを活用した水素製造や地域内での水素活用などについて定めた「石狩市水素戦略構想」を策定し、水素エネルギーの利用環境の整備に向け、関連機関や近隣市町村と連携しながら、調査・検討を進めています。

#### (6) 環境省 脱炭素先行地域事業

国は2050年カーボンニュートラルという目標に向けて、地域脱炭素の取組みを加速させるため、少なくとも100箇所の「脱炭素先行地域」をつくり、積極的に支援することで、「脱炭素ドミノ」を全国に広げることとしています。

本市においては、令和4年4月26日に第1回脱炭素先行地域に選定され、「再エネの地産地活・脱炭素で地域をリデザイン」をテーマに、下記の2つのエリアを設定し、脱炭素化を進めています。

エリア① 石狩湾新港地域内において、地域の再生可能エネルギーを供給する「REゾーン」を設定し、そのエリア内において脱炭素化と産業集積の両立を目指します。

エリア② 石狩市役所及び周辺の公共施設群5施設(市役所、総合保健福祉センター、こども未来館あいぽーと、学校給食センター、石狩市民図書館)に再エネの最大限の導入を図るとともに、3施設間においてはマイクログリッドを構築し、脱炭素化とレジリエンス強化を図ります。



図 3-35 脱炭素先行地域位置図

### 3 地球環境保全対策

#### (1) 市域内の気候変動の状況

##### ① 気温

石狩市の平成元年度以降の年間平均気温は、旧石狩市域、厚田区、浜益区などの地点においても、わずかながら上昇の傾向がみられます（図3-38）。

なお、グラフ中の「資料不足値」は、気象庁において統計データに不足があるため、値そのものを信用することはできない数値とされていますが、参考までに掲載しています。

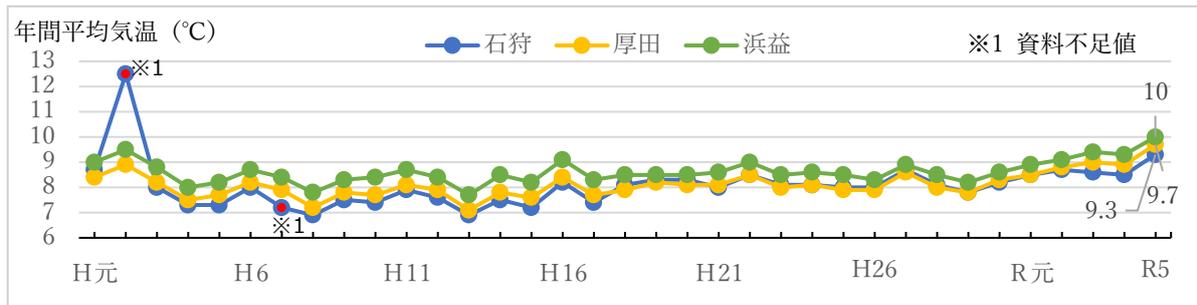


図 3-36 石狩地区、厚田地区、浜益地区の年平均気温

(気象庁調べ)

また、令和5年度の気温を見ると、各月で差があるものの、平年値(平成3年～令和2年の平均)と比較して上昇している月が多く、特に8月は全ての地域で大きく上昇しています（図3-37）。

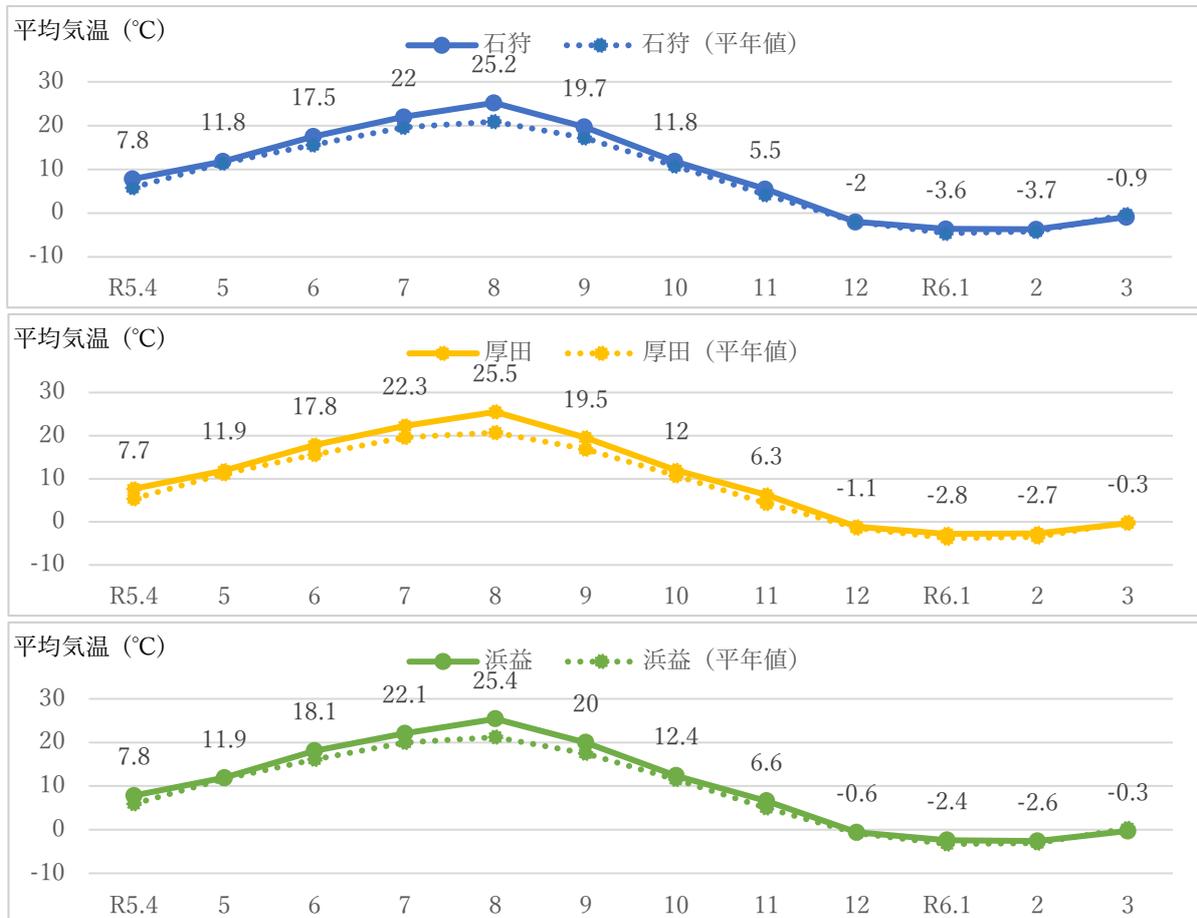


図 3-37 地区別の令和5年度月別平均気温

(気象庁調べ)

## ② 降水量

石狩市内の平成元年以降の年間降水量は、旧石狩市域に比べて厚田区、浜益区がわずかに多く、経年変化としてはほぼ横ばいとなっています（図3-38）。

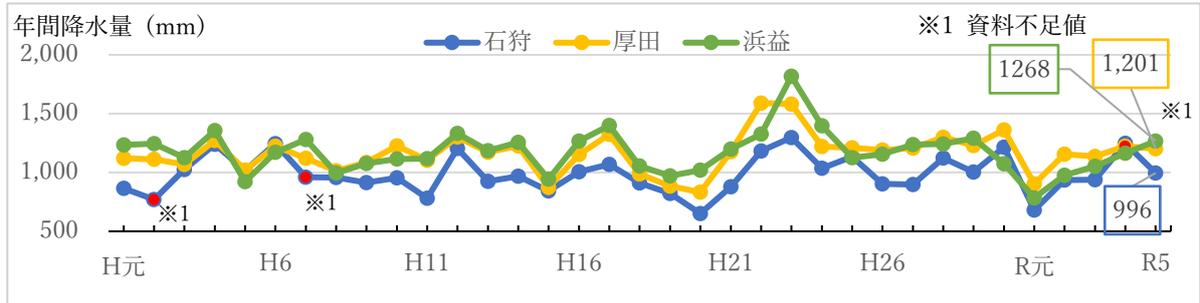


図 3-38 石狩地区、厚田地区、浜益地区の年間降水量

(気象庁調べ)

また、令和5年度の降水量を見ると、全ての地域で7月、8月の降水量が例年より減少している一方、9月から1月が例年よりも多い降水量となっています(旧石狩市域の12月を除く)(図3-39)。

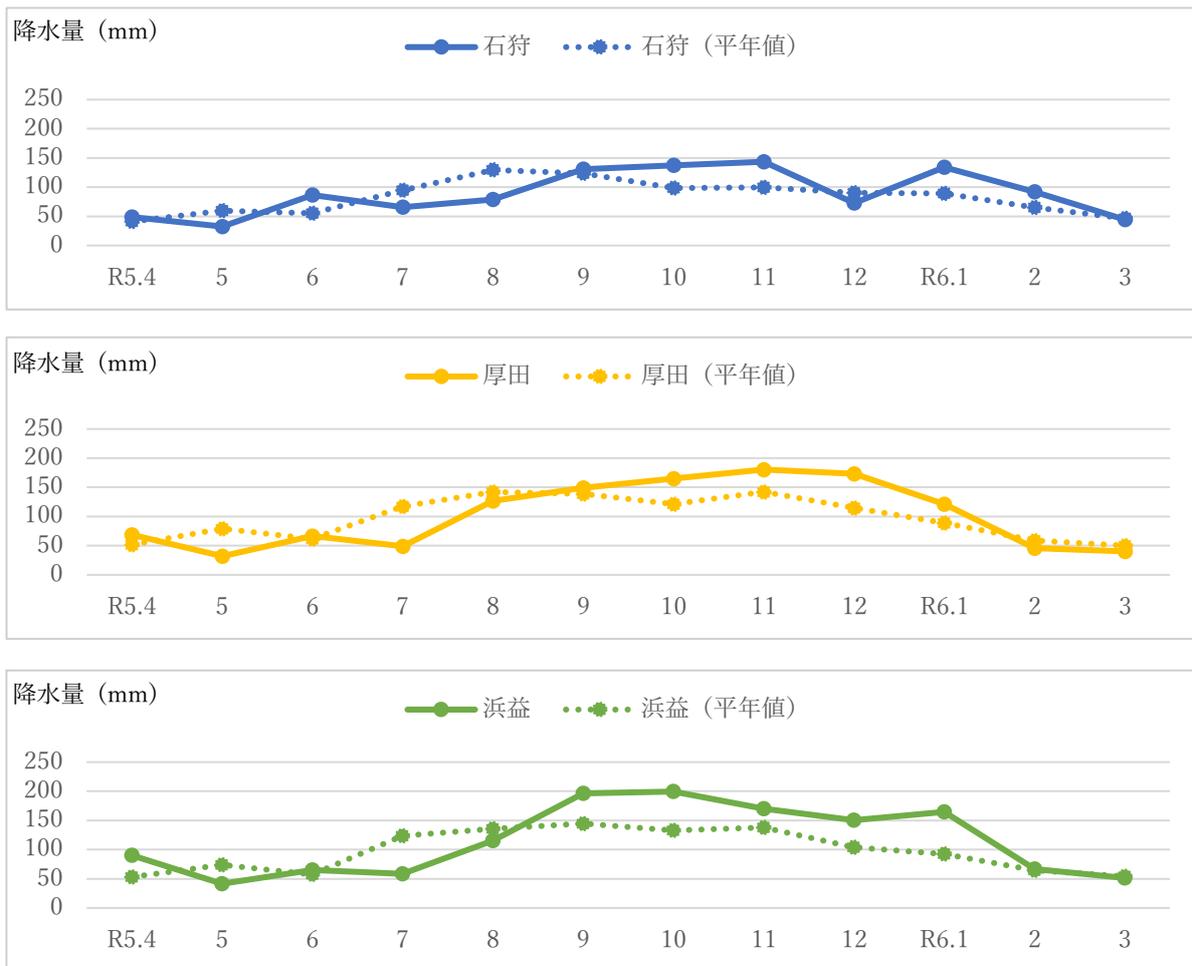


図 3-39 地区別の令和5年度月別降水量

(気象庁調べ)

### ③ 降雪量及び最深積雪

石狩市内の平成元年以降の降雪量と最深積雪及び令和5年度の月別降雪量と最深積雪はそれぞれ図3-40、図3-41のとおりです。

なお、浜益区の気象観測点は、降雪量の計測が行われていないため、浜益区の数値は算出していません。

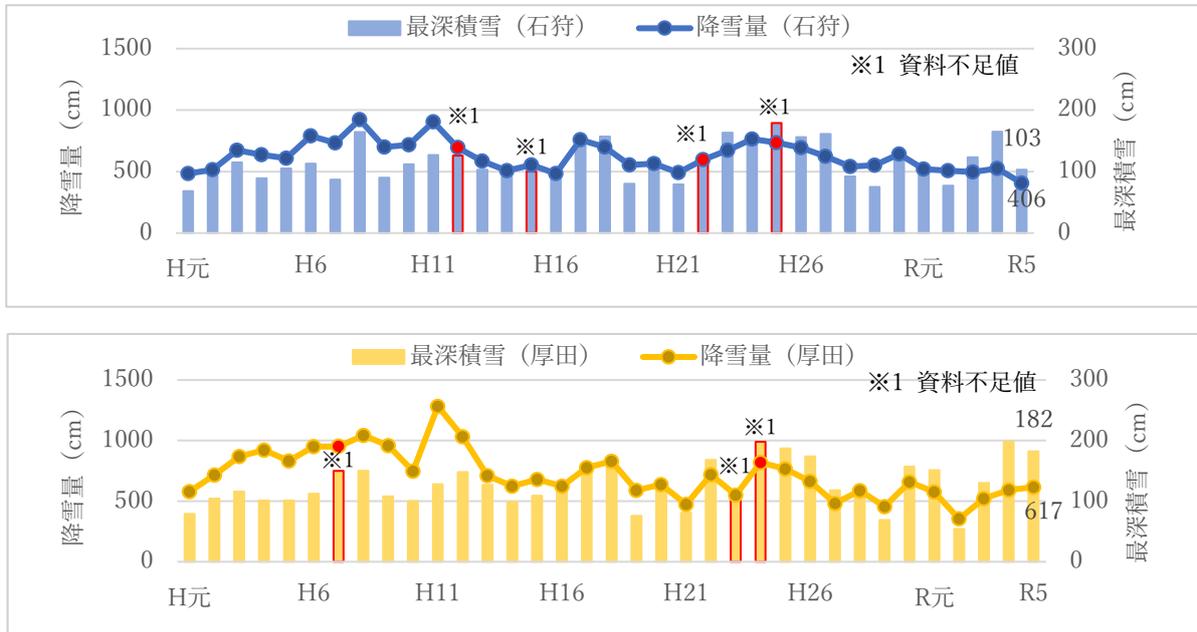


図 3-40 地区別の年別降雪量及び最深積雪

(気象庁調べ)

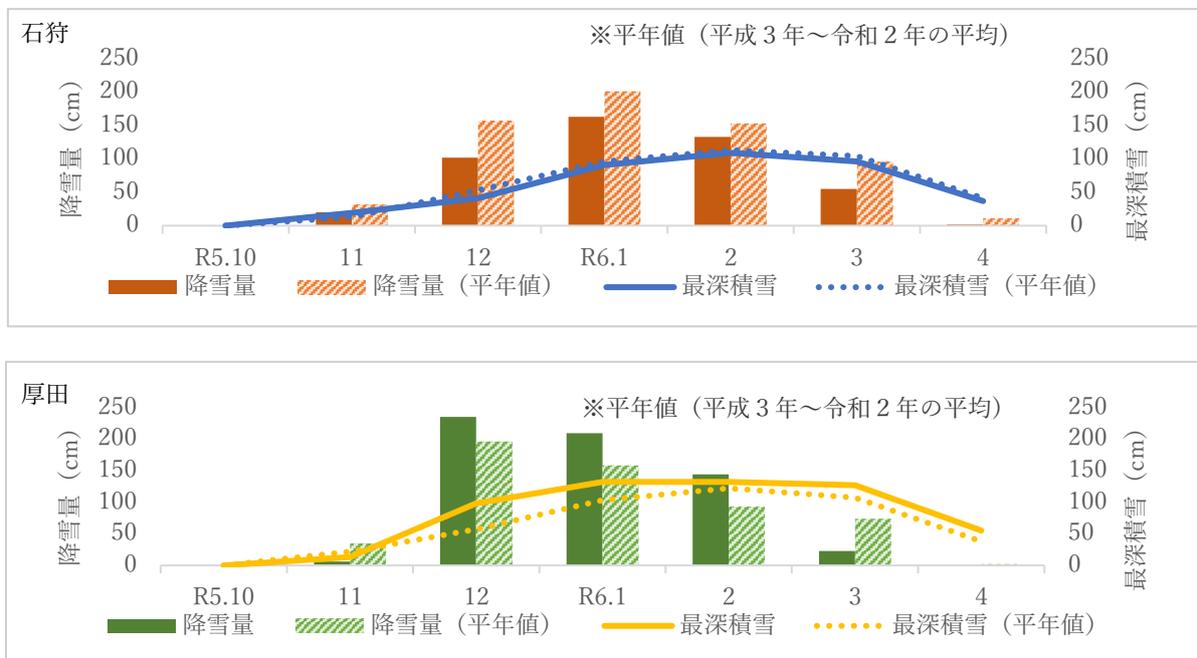


図 3-41 地区別の令和5年度月別降雪量及び最深積雪

(気象庁調べ)